

#### 「セシオン杉並」は昔しの鉄管原

今あるセシオン杉並あたりで幼少時代を過ごした年配の方ならきつとご記憶があり懐かしく思われることでしょう。この通称「鉄管原」は、セシオン杉並とその南側にある都営住宅の敷地と、環七を含めた大層広い原っぱだったのです。

草原の周辺も平屋が多く、山崎薬局以外は目立った建物もなく、原は一層広々と見えませんでした。

この広い原っぱには、バッタやガマがえるなどいろいろな昆虫や動物がいて、歩いていける足元からバッタ等が飛び立ったりしたものでした。

正月の凧揚げの名所でもあり色とりどりの凧が空を舞い、中には風にのってブーンといふ唸りをつけて飛ぶ凧もあり大人も子どもも楽しんだものでした。他にも面白く印象に残っているのは、トンボ捕りで、

シオカラとかムギワラなど俗なものではなく、ギンヤンマのように大型で優雅に飛ぶ姿は貫禄のあるものでした。

時々蚕糸試験場の職員が絹糸の両端に小さい玉を結びつけてトンボ目掛けて放り投げ、喰いついて落ちてきたところを捕えたりして実に平和そのものの風景でした。

又時に防空演習や陸軍の砲兵部隊が来て、空砲を射つけて付近の人達を驚かせたりもしました。

この鉄管原の北側に昭和十二年四月に杉十小学校が出来ましたが、戦後は南側に都営住宅が出来たのですが、変わらぬのはその間にある道路で、勿論舗装はされていませんでしたが、位置は昔のままです。

セシオン杉並の建っている地はかつてこんな原っぱだったのです。



昭和30年ごろの鉄管原に建てられた都営住宅